

「古墳時代における都市化の実証的比較研究—大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地」  
第6回研究会

『古環境復元の最新成果と都市化の諸要素—大阪上町台地を中心に』

前近代の都市は、近現代のそれと比較にならないほど、自然環境の強い影響下にあったと考えられます。『大阪上町台地の総合的研究』(H21-25年度、報告書2014年)では、上町台地とその周辺を対象に、弥生時代後期から豊臣時代後期の間の詳細な古地理図を提示しました。それは画期的な成果でしたが、以降も大阪地域の古環境復元の調査研究は進展しています。今回は、古地形・古植生復元の最新の成果を十分に理解し、それと不可分の関係にあった、港津、交通路、田畠・牧・茅場・森林、食料・水・木材などの各種資源、各施設の立地など、初期段階の都市化を支え、都市を形づくっていく様々な要素について議論します。大阪上町台地が中心となりますが、汎地域的、かつ通時代的な視座を有していると思います。関心のある皆様の参加を歓迎します。



1. 趙哲濟 氏 (大阪文化財研究所)  
「大阪上町台地と周辺低地の古地理復元」
2. 中条武司 氏 (大阪市立自然史博物館)  
「大阪海岸低地(西大阪平野)の形成過程」
3. 辻本裕也 氏 ((株)古生態研究所)  
「大阪上町台地と周辺の古植生復元(仮)」
4. 討論 (参加者)



日 時 : 2018年7月14日(土) 13時15分~16時45分

場 所 : 大阪歴史博物館4階第1研修室 (大阪市中央区大手前4-1-32 TEL. 06-6946-5728)

参加費 : 無料 (定員60名)

問合せ : 大阪文化財研究所 (TEL. 06-6943-6833)

本会は、科学研究費助成事業基盤研究(C)「古墳時代における都市化の実証的比較研究—大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地」(研究代表:南秀雄)によるものです。